

優秀賞

急がば回れ

(中部) 星崎運輸 (株)

榎野 陽子 (家族)

「再配達が有料になるかもしれません。」テレビから流れたその言葉で動かしていた手を止めてテレビに注視した。便利な世の中になり、配達で生活必需品を届けてもらう、翌日に届くのは当たり前で数日後に届くのはもう遅すぎる世の中になっていると思う。注視したテレビで運転手さんの忙しい一日が放送されていた。昼食を取る暇もなく午前中は配達、午後は再配達依頼に奔走されていた。

私自身、午前中指定で頼んでいた荷物が時間内に配達されずイラ付きを覚えた日を思い出す。私だけではなく家にはいたのに都合の悪いタイミングで再配達になってしまった人は沢山いると思う。

今まで運転手さんの事など考えた事もなかったが、忙しく運転中以外は常に走っている姿、再配達の為の長時間労働、感謝と申し訳なさを感じつつ、こんなに急いでいたらいつか事故をしてしまうかもと不安を感じた。その時に昔自分自身が急いでいた為に起こした事故を思い出した。

当時、まだ初心者で運転技術もないのになぜか自信にあふれていた時期であった。その日は、昼頃から遊ぶ予定をしており時間があつた為、近所のコンビニに足りなかった物を買に行った時である。コンビニにいた時に連絡があり早く行けそうだったから早めに出て、今もう私の家の前で待っているとの事だった。

待たせている現状と早く合流したい私は、車に飛びのり急いで家へと向かった。車で五分もかからない家まで信号一つの短い距離。唯一ある信号のない交差点で前の車が止まって合流しようとしている。今思えば時間的にはそこまで長くなかったと思うが、当時の私はその時間が永遠に思うぐらい長く感じた。

私は今すごく急いでいるのになぜ動かずずっと止まっているんだと思った私は一時停止で停止している車を追いこして無理に前に進んだ。その瞬間に大きなクラクションと共に大きな衝撃。大きな音と共に人間がゴロゴロと私の車の屋根部分まで転がってきたのが分かった。何が起きたのか理解できていないのに、人を殺してしまったかもしれない恐怖。足はガクガク震えて外に出ないといけないのに立てなくなってそこからどのような流れで警察がきてどうやって車から外に出たか今でもよく思い出せない。泣きながら警察官に事故の相手は生きていますか。と聞いたら生きていますよ、足を引き摺ってはいるが救急車は必要ないと言われた。今向こうで仕事を引き継いでいる。と言われ指さす方を見たら郵便局の車とバイクが2台、配達予定の荷物を壊れていないバイクに移動している最中だった。

恐る恐る声をかけると被害者の郵便局員の方が、「急いでいたのかな、これでもっと時間がかかっているから、これで急いでも良い事ないって分かってくれたかな」と問いかけてきたが、質問の内容より引き摺っていて血が出ている足が気になり、救急車を呼びますね。と言った時に「救急車は呼ばなくていい。呼んでしまったら人身事故になってしまう。今日は金曜日で土日は休みだから様子を見て痛みがなくなれば病院にも行かない。若いあなたには物損事故で済ませる方が良いと思う。急いでも良い事ないと分かってくれればそれで良い。」との返答だった。当時まだ十代。物損事故と人身事故の大きな違いもあまり分かっていなくとにかく生きていく事に安堵した。

事故の日から数日後、私の保険会社から電話があり相手からの請求額が一万九千円だから保険を使わず現金で払った方が良いと連絡がきた。バイクの修理費の一万九千円を振り込み郵便局の事故処理係に電話をした。何を聞いても教えてもらえず、謝罪の電話があった事は伝えておきます。との事だった。足はよくなっているのか、仕事には戻れているのか、痛みは残っていないか何一つ分からずに終わってしまった。

急いでも良い事ないと身をもって経験をし、相手の配慮で軽微な罪として済ましてくれた。感謝しかないが一步間違えば人の命を奪ってしまったかもしれない事故を起こしてしまったのは事実だ。

世の中の要は物流だと思う。個人間でも簡単に頼む事ができ家に届くのはあたり前だと思っていると思う。注文をするのも人で、発送をするのも人で、配達をするのも人だと忘れてはいけないと思う。私たち一人一人が配達員を焦らせる原因にならないように、自分達の負担が増えるからと誰かの負担ばかり増える世の中にならないようにと切に思う。

「急がば回れ」の意味は安全で確実な遠回りを選んだ方が結局は早く目的地に到着できるという意味だが、正しくその通りだと思う。感謝の意を伝える事が出来なかった局員さんにも私がこの言葉を胸に運転する事が一つの恩返しと思っている。急いで事故をする事がないように、また私たち自身が誰かに焦らす運転をさせないように心がけていれば、一つでも事故は減ると思う。そうならば素敵だ。